



北海道医歌人会詠草

礼状

美唄 吉村 誠治

歌一首添へて届きし礼状に同期のこころ涙ぐましく
差し上げし歌集の五首を選び給ひ感想添へし礼状届く
出詠の先生方の励ましに健康長寿を延ばしゆくべし
実家より送らせ給ひし吟醸生酒真夏日の今日特においしく
わが米寿記念の初の短歌集いつとはなしに自分史となる

ヤマボウシ

札幌 浜島 泉

ヤマボウシ彼方は赤く此は白く日差し漸やう温うなりつつ
葛のつる朽らしにあらず新枝を芽吹かせ繁り花咲く兆し
知りあひと仄か似し人バスに乗る帽子の色と被り様とが
ドライバー バスを進めずフレッシュの高校生にマナーを説きつ
職員を送迎のバス降りけるに雨強まりて軒に宿りつ

開陽丸

釧路 兎玉 昌彦

欧州の技術の粋を集めたる開陽丸も歴史は変え得ず
戦わず北の海底沈みいし無念伝える遺品の数々
祝膳のメニュー残るも哀れなる欧路はるかな旅の想い出
泡立てる嵐の海を越えにしも時代の波は乗り越え得ざりき
何が正・何が不正と言うなかれただ轟々と流れいく時代

物忘れ

旭川 稲積 文子

物忘れ何を意味するかを気にしない世代となりし会話むなしく
CTの画像に胎の委縮あり生き長らへし勲章かとも
支え合い寄りあつて歩みつつ向って行くは何処の世界
一筋の強き信念を通す人安保法案を防いでほしい
猫なりに意味ありそうにうろつきて空になったと餌皿で待つ

酒

江別 三宅 浩次

大酒をあおった話は過去のこと今ひたすらに慎みの中
輩と尽きぬ議論に時忘れ丁々発止もアルコールのせい
喧騒のススキノの街を梯子して馬鹿げた行い皆過去のこと
酒飲むはほどほどにせよと人に説き己のことは勝手にせよと
その昔若かったママはススキノの隅まで知って今は婆さん

先人と思う

札幌 古屋 統

道医報詠草欄に魚住氏平松・小國氏無くて淋しき
鉄槌に岩砕くがのおとこ歌詠い上げたる平松氏無し
宮様大会北大生最後の制覇者の小國氏エルムの森を良く詠む
医歌人会種子撒き苗を育てたる山下秀之助先生東繁造氏
会場は道庁前ビルマスカット同志相寄り詠み交したる